

シティプロモーション ～天王寺区活性化案～

シティ・プロモーション作業部会

(出水委員・内本委員・河村委員・渋谷委員・田中(誠悟)委員
田中(創三郎)委員・田淵委員・原田(恵子)委員)

基本的な考え方

天王寺区を長期的視野に立って今後の発展に寄与するものを大前提とし、いわゆるハコモノ・イベントのみに頼らない施策を提案する。

その為に

天王寺区が持つ“資源＝魅力”を改めて認識し、その特徴を分析し、伸ばすことが天王寺区の発展につながる。

天王寺区の“資源＝魅力”

- ①病院・公園など生活インフラの魅力
- ②文教地区としての魅力
- ③商業地区としての魅力

①病院・公園など生活インフラの魅力

○病院・医療機関

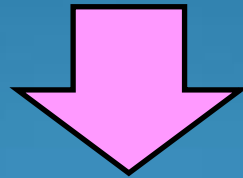
区内の医療機関に関しては現在のところ市内でも有数の数を抱え、十分に“魅力”となっている。

○公園

真田山・天王寺と市内でも有数の大規模な公園を持つ。この2つの公園の特徴を認識し、活かしていくことがより“魅力”につながる。

真田山公園

長所・・・緑が多く、スポーツ施設が充実
短所・・・駅から離れている

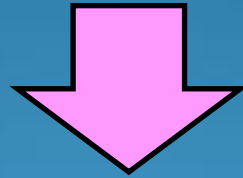


区内の“健康・スポーツ拠点”として健康維持のセミナーや各種スポーツ教室の充実、温泉施設の誘致などを行うことで区民の健康維持に貢献し、真田山公園自体の価値もより向上する。

天王寺公園

長所・・・美術館・動物園など施設が充実

短所・・・治安・アクセス



大きなターミナルの近くにありながら広大な敷地を持ち、大人から家族連れまでが集う施設を備えるメリットを十分に活用する。

都会のオアシスとして

再開発によって新たな集客地となる天王寺エリアにおいて、広大な敷地と緑を有する天王寺公園は唯一無二の存在である。

ここを「緑とオープンスペースの保全・創出の推進」と“大阪市緑の基本計画”にもうたわれているように、長期的・総合的に計画していくことが、天王寺公園という“資源”の有効活用となる。

▷解決すべき問題点

JR天王寺・地下鉄天王寺駅から天王寺公園へ直線的に入ることができない。



導線を変えることで、人通りが生まれる



戦略的に“導線”を変えてみる

現在、北側にある歩道を南下させ
天王寺駅北口交差点をスクランブル化



各種審議会でも再三指摘されてきた

○アクセスの改善

○公園の無料化



「公園は100^{メートル}離れた場所にあるのも同じ」と言われた
過去ではなく、市民に愛される今のセントラルパークへ

天王寺公園

JR天王寺
地下鉄天王寺

活性化への戦略

▷ 資源を活用したイメージづくり

⇒ 都会の中にあるオアシスとして、ゆったりと過ごせる“場所”へ

▷ ターミナルからの導線、寺町からの導線

⇒ 公園へのルートをスムーズすることで人の流れを作り出す

“魅力”の提供

○美術館前に喫茶スペースを設置

⇒区内の店舗に出店してもらうことで
訪れる側にも、店舗側にも“魅力”

○茶臼山側に出入り口を設置

⇒一心寺を始めとする寺町への導線
を新たに作ることで、人の流れを生
みだし、参詣客に“魅力”

○慶沢園休憩所での野点

⇒外国からの観光客に“魅力”

南側・・・ハルカス・Q'sMALLなどといった
集客が期待される商業エリアへ
北側・・・都心にある大規模な緑を有効に
活用し、都会のオアシスへ



エリアごとの棲み分けで相乗効果を期待



天王寺区が持つ“資源＝魅力”を改めて認識し
有効活用することで、更に魅力が深まる

②文教地区としての魅力

○多くの学校・施設

区内には市内でも有数の学校を有し、すでに文教地区として確固たる地位を有している。

今後は、学校・施設に頼り切っていた体質を見直し、積極的に“資源”を活用することで、現代社会に必要とされる“人づくり”を積極的に推進する。

③商業地区としての魅力

○天王寺区内の“街”

鶴橋・・・焼肉・コリアタウンといったイメージが定着

⇒イメージ定着も快適な空間作りは必要

上本町・・・シェラトン都・YUFURA・新歌舞伎座

⇒なんばに近い立地や周辺環境から

今後の開発には困難な面が多い

天王寺・・・環状線・近鉄・地下鉄の一大ターミナル

⇒南側は大規模な再開発が行われる